

第4次土浦市子ども読書活動推進計画

～ 子どもたちの豊かな心と生きる力を育む～

【案】

令和 8年 3月

土浦市教育委員会

目 次

第1章 子ども読書活動推進計画の策定にあたって	
1 策定の趣旨	1
2 国・県の動向	2
3 計画の位置づけ	3
4 計画の対象	3
5 計画の期間	3
第2章 子ども読書活動の現状と課題	
1 これまでの取組	4
2 アンケート調査の結果(抜粋)	7
【コラム：子どもたちに聞いてみた】	10
3 評価・課題	11
第3章 第4次計画の基本的方向	
1 基本理念	12
2 基本方針	12
3 計画の体系	14
第4章 第4次計画における施策と取組	
基本方針1 発達段階に応じた読書活動の推進	15
施策(1) 乳幼児期における読書活動の推進	15
施策(2) 学童期における読書活動の推進	17
施策(3) 青年期における読書活動の推進	18
施策(4) 多様な子どもたちの読書活動の推進	20
基本方針2 子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備	23
施策(1) 家庭、子育て関連施設、地域における読書機会の提供と環境整備	23
施策(2) 学校、学校図書館における読書機会の提供と環境整備	23
施策(3) 図書館における読書機会の提供と環境整備	25
基本方針3 子どもの読書活動に関する普及・啓発	27
施策(1) 保護者、市民への啓発	27
施策(2) 子どもの読書活動に係る情報発信	28
第5章 計画の推進	
1 成果目標	30
2 進行管理	30

第1章 子ども読書活動推進計画の策定にあたって

Ⅰ 策定の趣旨

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力や創造力を豊かなものにする上で欠くことのできないものであり、心の成長にも大きく関わっています。

土浦市立図書館では、すべての子どもが自主的な読書活動を通じて、豊かな心を育み、人生をより深く生きる力を身につけていけるよう努めています。

近年、急速なデジタル化や情報通信手段の多様化が進む中で、子どもの読書環境にも大きな変化が生じています。タブレットやスマートフォン、携帯型ゲーム機などの普及によって、子どもの活字離れや読書離れが懸念される状況が続いており、これらの問題に対応するための新たな視点が求められています。

子どもが乳幼児期から青年期まで、成長に応じて読書に親しみ、継続して本と関われるようにするためには、家庭、地域、学校、図書館が連携し、切れ目のない支援を行うことが重要です。また、読書に特別な配慮が必要な子どもや日本語を母語としない子どもなど、多様な子どもたちにも対応できるよう、読書のバリアフリー化を進める必要があります。

「土浦市子ども読書活動推進計画」は、子どもの読書活動が日常生活の中に根づくよう、地域全体で支える体制を整えるための土台となるものです。子ども一人ひとりがその発達段階に応じた読書活動を通じて、豊かな知性と感性を育み、社会で生き抜く力を身につけるための基盤となることを目指しています。

2 国・県の動向

(1) 国の動向

国は、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に進め、子どもの健やかな成長を支援することを目的として、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。この法律に基づき、令和4年度には「第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されました。

第5次 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（令和5～9年度）

【基本方針】

急激に変化する時代において、必要とされる資質・能力を育む上で、読解力や想像力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠であり、全ての子どもたちが読書活動の恩恵を受けられるよう、以下の点を考慮し、社会全体で子どもの読書活動を推進する。

- 1 不読率の低減
- 2 多様な子どもたちの読書機会の確保
- 3 デジタル社会に対応した読書環境の整備
- 4 子どもの視点に立った読書活動の推進

令和元年6月施行の「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」に基づき、令和2年7月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画（読書バリアフリー基本計画）」が策定されました。令和4年1月には第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」が策定されるなど、子どもの読書環境の整備が進められています。

(2) 県の動向

茨城県では、国の基本的な計画を踏まえ、令和4年3月に「いばらき子ども読書活動推進計画（第4次推進計画）」を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んでいます。

第4次 いばらき子ども読書活動推進計画（令和4～7年度）

【基本方針】

「ひとりひとりの能力を開発し 豊かな人間性をつちかう」「じょうぶな身体をつくり たくましい心を養う」「郷土を愛し 協力しあう心を育てる」という本県教育の目標を達成する上で、読書活動の推進は重要な取組の一つです。

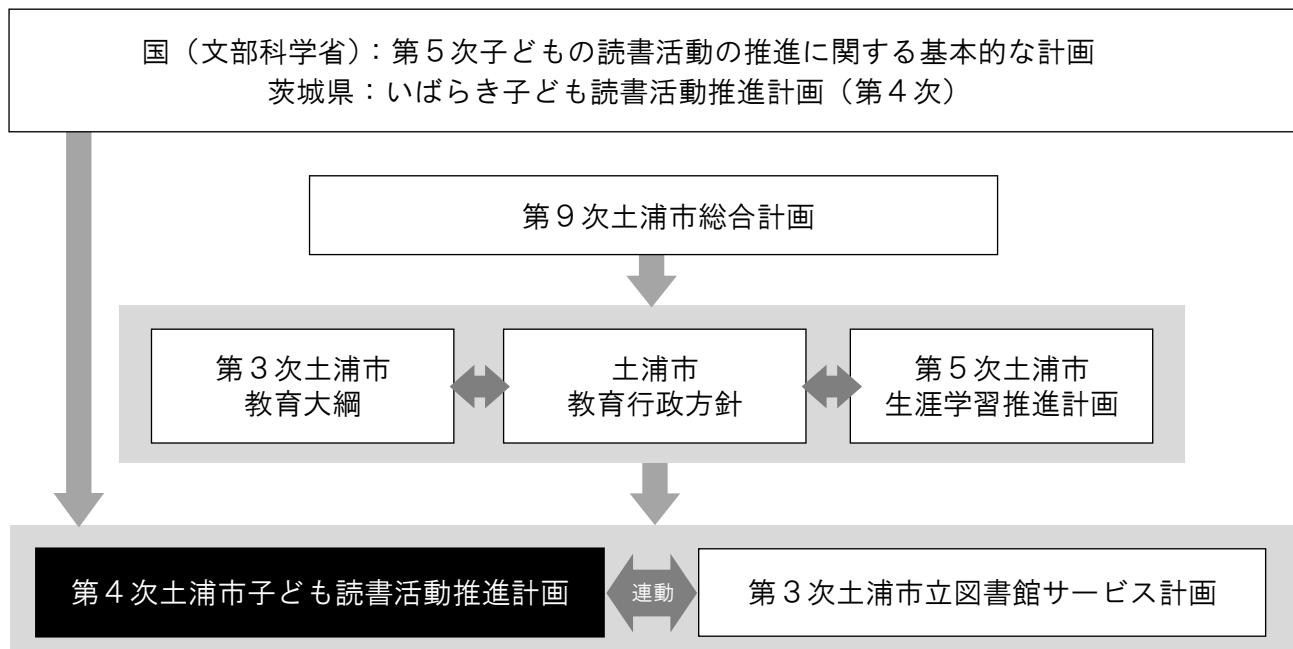
さらに、子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、社会全体で子どもの自主的な読書活動の推進を図るとともに、そのための環境づくりに積極的に努める必要があります。

のことから、国の基本的な計画を踏まえ、次の方針のもと、社会全体で子どもの読書活動を推進します。

- 1 読書活動を支える環境の整備
- 2 県立図書館と市町村立図書館等の連携
- 3 学校における読書活動の充実

3 計画の位置づけ

「第4次土浦市子ども読書活動推進計画」は、文部科学省の「第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び県の「いばらき子ども読書活動推進計画（第4次）」の基準等に基づき、市政運営の基本である「第9次土浦市総合計画」及び「第5次土浦市生涯学習推進計画」と整合性を図りつつ、さらに「第3次図書館サービス計画」と連動しながら、策定いたします。



4 計画の対象

計画の対象者は、土浦市に在住または在学する、0歳からおおむね18歳以下の子どもとします。

また、学校や地域、行政、子育て関連施設の職員や保護者など、子どもを取り巻く、すべての大人も対象とします。

5 計画の期間

本計画の期間は、令和8年度から令和12年度の5年間と定めます。

社会情勢や子どもの読書を取り巻く環境の変化を反映させ、必要に応じて計画内容の見直しを行うものとします。

第2章 子ども読書活動の現状と課題

| これまでの取組

■ 第1次土浦市子ども読書活動推進計画(平成23年4月～平成28年3月)

- | | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本方針 | <ul style="list-style-type: none">・子どもが自主的な読書に親しむ機会の提供と読書環境の整備・充実・家庭、地域、学校を通じた社会全体での取組の推進・子どもの読書活動に関する理解と関心の普及 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第1次計画では、“情報発信”と“発達段階に応じた読書”を重視し、ホームページを通じて、読書活動の重要性について情報提供を行ってきました。ブックスタート事業^{※1}やおはなし会では、親子で絵本を楽しむ時間の大切さを伝え、家庭での読書活動の推進を図りました。さらに、子どもが年齢に応じて読書を楽しめるよう、ガイドブック「たからもの^{※2}」を作成、配布するとともに、中高生向けには、興味や進路に応じた本を集めた「Teenの本棚^{※3}」を設置し、現在のアルカス土浦館に継承しています。

■ 第2次土浦市子ども読書活動推進計画(平成28年4月～令和3年3月)

- | | |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本方針 | <ul style="list-style-type: none">・子どもたちが本に興味を持ち、楽しむことができる機会をつくります・子どもたちが読書に親しむ環境を整えます・子どもの読書活動に関する社会全体の理解と関心を高めます |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第2次計画では、計画期間中の平成29年11月に土浦駅前に図書館を含む複合施設「アルカス土浦」が開館し、子どもの本エリアやおはなしのへや、授乳室などの環境を整備しました。翌年には、貸出履歴を記録する「本の通帳サービス^{※4}」を市内の小・中学生向けに開始しました。さらに、高校生との連携にも注力し、装飾の掲示や読み聞かせ講座の実施、高校生によるおはなし会を開催するなど、ボランティアの育成にも取り組みました。

※1 ブックスタート事業

絵本の読み聞かせとともに、絵本やアドバイス集を配布し、赤ちゃんと絵本を介して楽しい時間を分かち合うことの大切さを伝える事業。

※2 たからもの

土浦市立図書館の所蔵本の中から、年齢に応じたおすすめ本を紹介したガイドブック。本を選ぶ時の参考として、小学校低学年むけ、小学校高学年向け、中学生向けを発行している。

※3 Teenの本棚

子どもから大人への転換期にある、13歳から18歳までの年齢層のことをヤングアダルト(YA)といい、その年代の関心や心理に配慮した図書を収集、展示している。現在は、土浦駅前のアルカス土浦内図書館、4階コミュニティスペース「ロフト」内に設置し、放課後来館する中高生に利用されている。

※4 本の通帳サービス

図書館で借りた本の貸出日、タイトル、著者名、出版社を記録することができるサービス。現在は、土浦市民及び市内の小・中学校、義務教育学校、高等学校の在学者に利用を拡大している。

■ 第3次土浦市子どもの読書活動推進計画（令和3年4月～令和8年3月）

- | | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本方針 | <ul style="list-style-type: none">・子どもが継続して読書に親しむ機会の提供・充実・子どもの読書活動のための環境の整備・充実・子どもの読書活動の普及・啓発 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第3次計画では、新たに開始したサービスや学校支援、ボランティアの活用を中心に、読書活動推進事業の継続と拡充に努めました。

新型コロナウイルス感染症による社会情勢やニーズの変化、急速なデジタル化に対応するため、来館せずに本を読むことができる電子図書館の充実を図りました。GIGAスクール構想^{※5}により小・中学生にタブレットが配布されたことから、ホームページに「こどもでんしょかん」を開設し、子ども向け電子書籍の収集、提供を促進しました。

施策1 読書活動に役立つ情報発信

読書ガイドブック「たからもの」の発行及びブックスタート時における絵本リストの配布を継続して実施しました。また、「キッズとしょかんだより」やホームページにおいて、展示やイベントに関する情報発信を行いました。

施策2 本に親しむ機会の提供

保育所や幼稚園では、ボランティアや保育士による読み聞かせを通じて、子どもたちが本に親しむ機会を設けました。公民館では、地区の広報紙などを活用して新刊情報を発信し、学校図書館では、長期休暇中の貸出上限を増やすなど、本の利用促進に努めました。

図書館では、コロナ禍で中止していたおはなし会、施設見学、職場体験、夏休み子ども講座などを段階的に再開しました。

施策3 読書習慣の推進に対する具体的な取組

図書館では、10か月児育児相談会場において、ボランティアによる絵本の読み聞かせを実施し、ブックスタートパックの配布を行いました。

また、学校図書館においては、本の探し方を学ぶオリエンテーションの実施や、朝の読書時間の推進などを通じて、子どもたちの読書習慣の定着に向けた読書指導に取り組みました。

施策4 本に親しむ環境整備

子育て関連施設では、絵本コーナーの設置や年齢に応じた本の配架など、レイアウトの工夫を行い、学校図書館では、季節や行事、授業のテーマに合わせた展示を実施しました。

図書館では、GIGAスクールID・パスワードを活用し、電子図書館へのスムーズなアクセス環境の整備を進めました。

^{※5} GIGAスクール構想 (Global and Innovation Gateway for All)

児童・生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、だれ一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現する構想。

施策5 施設における児童図書の充実

絵本や児童書に加え、外国語の本や大きな文字の本など、多様な資料を収集しました。また、図書館で不用となった児童書を保育所や児童館で再利用し、子育て関連施設における図書の充実を図りました。

施策6 学校・地域・行政等の連携

高校生が自らの視点でおすすめ本を選んで紹介する活動を実施し、読書を通じた自己表現の機会を提供しました。また、地域の民間団体やボランティアと連携・協力し、各種イベントを開催しました。

施策7 研修会・講座等(大人対象)の実施

読み聞かせ講座や研修会を開催し、ボランティアや保護者など、子どもの読書活動を支える大人を対象に、知識と理解の向上を図りました。また、現場の意見やニーズを踏まえてテーマを設定した学校図書館司書研修会を実施し、司書の資質向上に努めました。

施策8 広報・啓発

子育て関連のテーマ展示のほか、保護者を対象とした講座を開催し、育児への理解促進や親子のふれあいの機会を提供しました。

ホームページのリニューアルや公式Instagramの開設、「家庭教育通信」や「子育て支援ガイドブック」への寄稿を通じて、図書館やイベントの情報を発信し、利用促進と読書啓発に取り組みました。

2 アンケート調査の結果(抜粋)

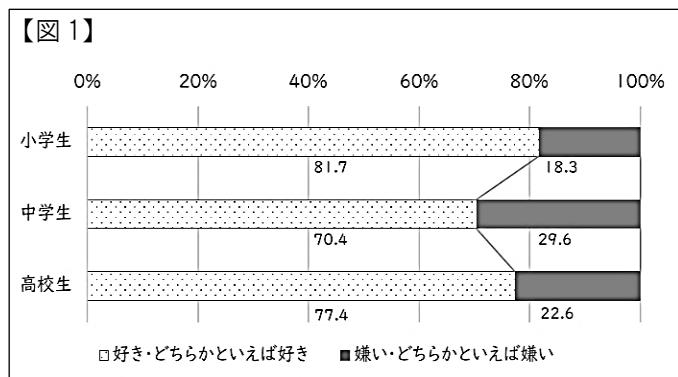
土浦市における、子どもの読書活動状況や読書環境の現状を把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。有効回答数は2,473人です。

- 調査期間 2024年10月～12月
- 調査対象 小学生:約1,900人、中学生:約1,000人、高校生:約300人、大人:約1,000人
- 回答内訳 小学生:1,343人、中学生:530人、高校生:283人、大人:317人
- 数値 回答率(%:パーセント)で表示

(1) 読書への関心

①子どもの読書への関心

「本を読むことは好きですか?」という質問に対する回答では、小・中・高生いずれにおいても「好き・どちらかといえば好き」の割合は70%以上と高いものの、学年が上がるにつれてその割合が減少する傾向が見られました。



【図1】小学生・中学生・高校生
「本を読むことは好きですか?」より

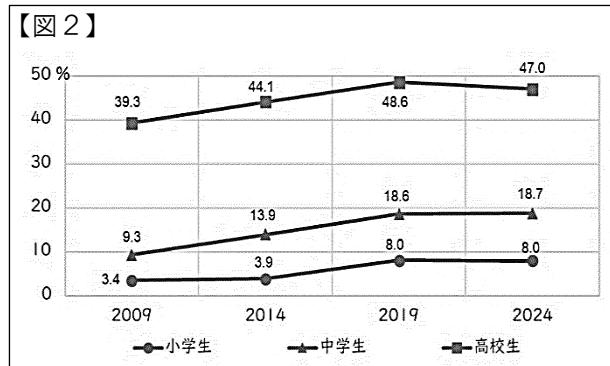
②不読率^{※6}の現状

最近1か月の読書冊数に関する調査では、「読んでいない・わからない」と回答した子どもの割合(不読率)は、前回の調査から中学生でわずかに増加したものの、小学生は同水準、高校生は減少と、全体としては改善傾向が見られました。

また、「読んでいない・わからない」の理由を分析したところ、「本を読むのがつまらない」などの読書への関心の低さに加え、「読みたい本がない」「何を読めばよいかわからない」「時間がない」といった環境的な要因が明らかになりました。

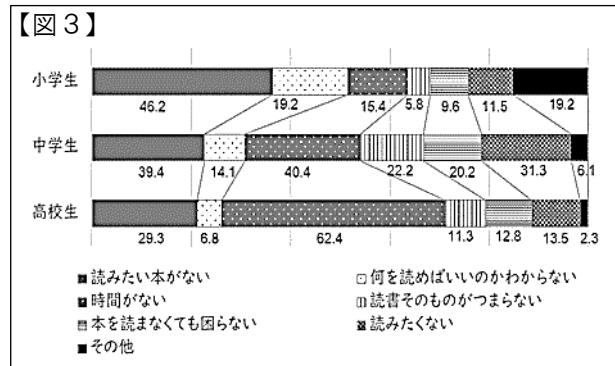
※6 不読率

文部科学省「第3次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」では、全国学校図書館協議会の「学校読書調査」を参照し、1か月間に1冊も本を読まなかった不読者の割合を「不読率」としている。



【図2】 小学生・中学生・高校生

「最近1か月の間に、本を何冊読みましたか？」に対して「読んでいない・わからない」と回答した割合における5年ごとの調査結果の推移



【図3】 小学生・中学生・高校生

質問項目「最近1か月の間に、本を何冊読みましたか？」に対して「読んでいない・わからない」を選択した回答者を対象とした質問項目「読まなかった理由を教えてください」より

(2) ICT環境と読書支援

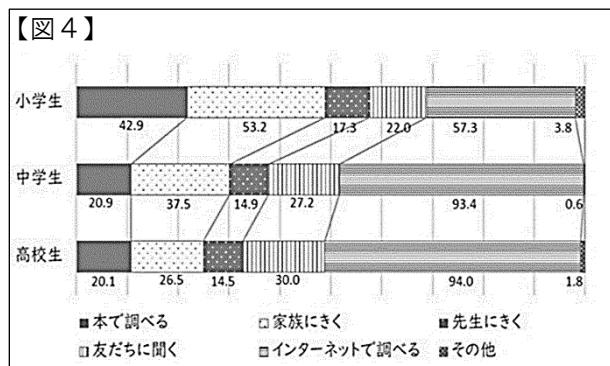
①インターネット環境の普及

知りたいことを調べる際の手段では、小学生が「本」を選択している割合がわずかに多く見られるものの、最も多い回答は「インターネット」である点や、中・高生と上がるにつれて、その割合が高くなしていくことが調査結果に表れています。

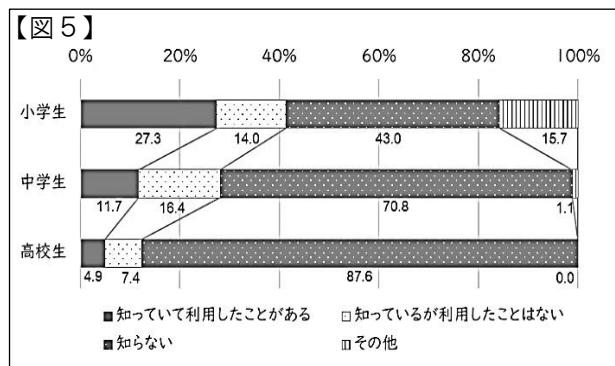
②「土浦市電子図書館」の利用状況

電子図書館サービスに関しては、高校生の周知度・利用度の低さが挙げられます。小・中学生は端末からアクセスしやすい環境が整っている一方、高校生は自らID・パスワードを登録する必要があるため、図書館への関心が高い層に限定されています。

また、最も利用が多い小学生でも、全体の約3分の1にとどまっており「使っているのが“こどもでんしとしょかん”なのかどうかわからない」といった声も見られました。



【図4】 小学生・中学生・高校生
「知りたいことは、何で調べますか？」
より



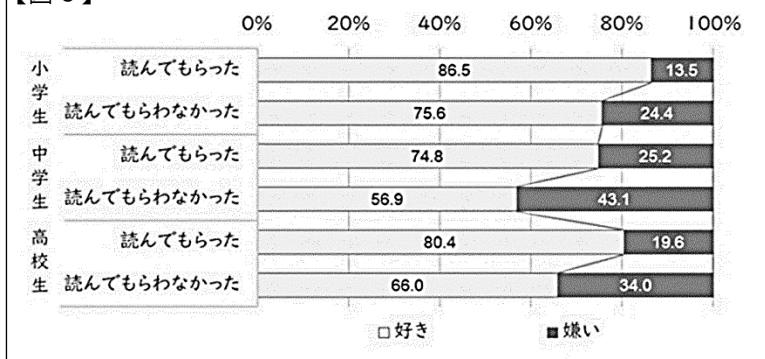
【図5】 小学生・中学生・高校生
「電子図書館を知っていますか？」×「電子図書館を利用したことがありますか？」
2つの質問項目より抽出

(3) 家庭における読書環境

① 乳幼児期からの読書習慣

家庭での読み聞かせの経験の有無が子どもの読書好きにどれほど影響するのか、その関連性について調査しました。小・中・高生いずれにおいても、読み聞かせをしてもらった子どもは、読み聞かせを経験しなかった子どもに比べて、本を読むことに対して「好き」と感じている割合が高い結果となり、乳幼児期からの読書習慣形成の重要性を表しています。

【図6】



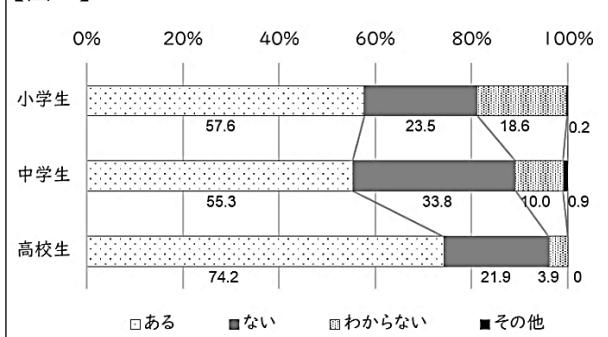
【図6】小学生・中学生・高校生
 「小学校入学前に、家の人に本を読んでもらいましたか？」
 ×「本を読むことは好きですか？」
 2つの質問項目より抽出

(4) 図書館の利用状況・満足度

① 図書館の利用状況

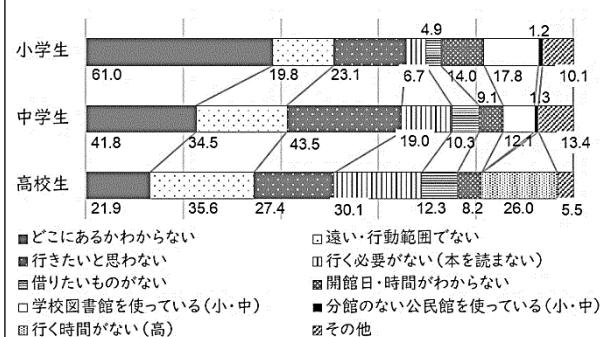
「土浦市立図書館(分館も含む)に行ったことはありますか?」という質問に対し、半数以上が「ある」と回答しています。「ない」、「わからない」と回答した理由では、小・中学生では「どこにあるかわからない」「行きたいと思わない」「遠い・行動範囲でない」が多く、高校生では「どこにあるかわからない」の減少が見られました。これは、駅前への移転により、公共交通機関を利用する高校生が多いことが要因として挙げられます。しかし、「行く必要がない(本を読まない)」の割合が、中・高生では高まる点も特徴で、図書館を認知しながらも利用しない層が存在することがわかりました。

【図7】



【図7】小学生・中学生・高校生
 「土浦市立図書館(分館も含む)に行ったことはありますか?」より

【図8】



【図8】小学生・中学生・高校生
 図9の質問に「ない・わからない」を選択した回答者が対象の質問項目「土浦市立図書館(分館も含む)に行かない理由は?」より

コラム：子どもたちに聞いてみた

夏休み期間に、子どもたちの生の声を聞きました。その声から見えた課題を、これからの方策や取組に活かしていきます。

期 間：令和7年7月10日～8月29日

対象：小学生（夏休み子ども講座参加者）87名

中学生（職場体験学習参加者）25名

高校生（学生ボランティア 壁面装飾・おはなし会）26名

お題：①子どもたちが、もっと本を読むためにはどうしたらいいですか？

②図書館にしてほしいこと、あればうれしいと思うものがありますか？

◆◆◆◆◆ 子どもたちが“本を読みたくなるため”にできること ◆◆◆◆◆

最近、子どもが本を読まなくなつたと感じる大人が増えています。実際、子どもたちの声を聞いてみると、「本が多すぎて、何を読めばいいか分からない」「長文は疲れる」といった声が多くありました。特に中高生になると、塾や部活動の影響で読書の時間がとりにくく、SNSや動画の短くて手軽な情報に慣れているため、集中できないという課題も見られます。

一方で、「人気ランキングが知りたい」「スタンプラリーやクイズで読書を楽しみたい」といった前向きな意見も多く、読書をゲーム感覚で楽しめる工夫や、同世代との交流の場が求められていることがわかりました。また、「身近に本があれば自然と読むようになる」といった意見も見られ、幼いころの読書習慣や本との接点の大切さが伺えました。

子どもたちに本を身近に感じてもらうためには、SNSでの情報発信や、短時間で読める本の紹介、静かに集中できる環境の提供が効果的です。読書が“強制”や“義務”ではなく、“楽しみ”や“日常”として定着するよう、家庭・学校・図書館が一体となってサポートしていくことが大切だと感じました。

「図書館にしてほしいこと、あったらうれしいもの」という問いかけに、子どもたちからは多くのリアルな声が寄せられました。中でも多かったのは、「漫画を置いてほしい」「クッションがあるとうれしい」といった、読みやすさや快適さを求める意見です。こうした声を受けて、図書館では、物語の入口として効果的な漫画の選書や、リラックスして読書できるスペースづくりを検討しています。

また、中高生からは「自習席をもっと増やしてほしい」「静かな環境で集中したい」といった、学習面でのニーズも目立ちました。近年、図書館を勉強の場として活用する中高生が増えており、研修室の自習席としての開放など、学習環境の整備も進めています。

さらに、「図書館の情報が届かない」「高校生が企画できるイベントがあればいいのに」といった声もありました。図書館では、こうした声に応えるべく、情報発信の見直しや、子どもが主体的に関われる仕組みづくりにも取り組んでいきます。

子どもたちの感性に寄り添いながら、図書館がより身近で、楽しく、そして役立つ場所になるよう、これからも子どもの声を大切にしていきたいです。

3 評価・課題

第1次計画の策定から15年が経過し、家庭、子育て関連施設、地域、図書館が連携した読書推進体制が整備され、イベントの開催やボランティア活動を通じて一定の成果が見られました。一方で、子どもの本の貸出数や学校図書館の利用は目標に届かず、読書習慣の定着が課題となっており、今後は年齢に応じた読書活動の施策が求められます。

図書の充実や情報発信、施設内の工夫を進めるとともに、取組効果を把握するための指標づくりを行い、学校と連携して中高生への対応強化と読書習慣の定着に向けた具体的な環境整備を推進していくことが重要です。

【主な課題】

■ 発達段階に応じた読書支援の強化

- 乳幼児期から高校生まで、発達段階に応じた読書習慣の形成
- 就学前の読み聞かせ等、早期からの読書体験の充実
- 中高生向けの思考力を育む読書活動の推進

■ 学校図書館の活用促進

- 図書館サービスの認知度向上と活用の促進
- 学校図書館司書と教員の連携強化
- 学校図書館の学びの拠点としての機能向上

■ 子ども向けサービスと利用環境の充実

- 来館意欲を高める展示やイベントの工夫
- 電子図書館などICTを活用した多様なサービスの整備
- 地域に根ざした読書機会の提供

■ 家庭、子育て関連施設、地域との連携強化

- 家庭での読書環境づくりと保護者への啓発
- 子育て関連施設、地域と連携した取組の推進
- 日常的に本にふれる機会の提供

第3章 第4次計画の基本的方向

| 基本理念

子どもたちの豊かな心と生きる力を育む

第3次計画では、「子どもたちの豊かな心と生きる力を育む」を基本理念として、読書活動の推進に取り組んできました。この理念には、読書が単なる知識の習得にとどまらず、心の成長や将来を生き抜く力を育てる大切な活動であるという考えが込められています。

子どもたちは、本を読むことで言葉や知識を身につけるだけでなく、物語に登場する多様な人物や出来事を通じて、感じる力、考える力を養います。本の世界にふれることで、他者の感情や思いに共感し、自分自身の気持ちや考えと向き合うことができるようになり、感受性を豊かにするだけでなく、自分自身をより深く理解する助けにもなります。さらに、物語の中で描かれる問題解決の過程や多様な視点を通じて、柔軟な思考力や判断力が身につき、将来さまざまな困難に直面したときに役立つ大きな力となります。

第4次計画においても、この基本理念を引き継ぎ、土浦市のすべての子どもたちが読書を通じて心を育み、健やかに成長していくよう、今後も取組を推進してまいります。

2 基本方針

国は、第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（令和5年3月）の中で、「急激に変化する時代において、必要とされる資質・能力を育む上で、読解力や想像力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠」であるとして、すべての子どもたちが読書活動の恩恵を受けられるよう、「1 不読率の低減、2 多様な子どもたちの読書機会の確保、3 デジタル社会に対応した読書環境の整備、4 子どもの視点に立った読書活動の推進」を基本の方針とし、社会全体で子どもの読書活動を推進すると掲げています。

国の基本の方針を踏まえ、第4次計画では、子どもの発達段階に応じた読書活動に関する取組、家庭や子育て関連施設、地域、学校、図書館、それぞれにおける環境整備に関する取組、子どもの読書活動の普及、啓発に関する取組に重点を置き、次の3点を基本方針とします。

基本方針1	発達段階に応じた読書活動の推進
基本方針2	子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備
基本方針3	子どもの読書活動に関する普及・啓発

基本方針Ⅰ 発達段階に応じた読書活動の推進

子どもの頃に身につく習慣は、自然に形成されるものであり、読書もそのひとつとして、幼少期から継続的に取り入れることで発達に良い影響をもたらします。

子どもの成長段階に応じた読書の機会を提供し、それぞれの年齢や発達に適した読書体験を通じて、楽しさや意義を伝えるとともに、段階ごとに必要な支援を行うことで、子どもが自主的に本と関わり続けられる環境づくりを目指します。

基本方針Ⅱ 子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備

読書に親しむ機会を増やすことで、子どもは本を手に取る習慣を身につけ、さまざまな知識や価値観にふれることができます。子どもにとって身近な存在である家庭や学校図書館に読みたい本があり、読書スペースがあること、また、親や教員が読書時間を共有することが、積極的な関心を生み出します。

図書館、学校、地域社会が協力して、子どもが読書を楽しむための場を多様に提供することに重点を置き、図書館では豊富な蔵書を整備し、子どもが自分に合った本に出会えるよう努めます。また、学校や地域での読み聞かせや読書会を通じて、子どもの読書習慣の形成を促します。

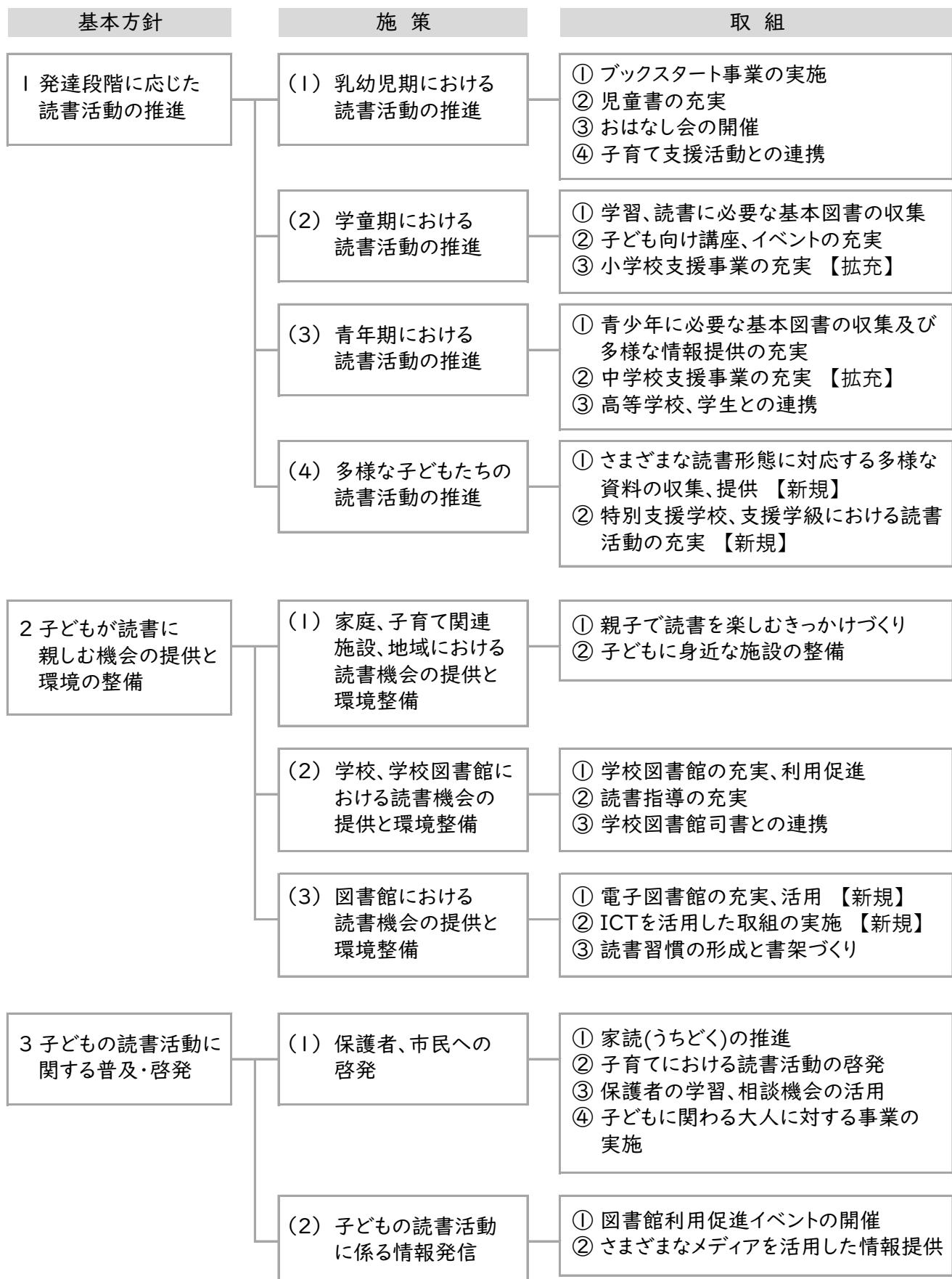
基本方針Ⅲ 子どもの読書活動に関する普及・啓発

子どもの読書活動は、その意義を保護者や保育士をはじめとする子どもに関わる大人が正しく理解するために、積極的に支援することが必要です。読書環境は家庭や地域など、大人の関わりによって大きく左右されるため、社会全体で読書の価値を共有し、日常的に子どもが本に親しめるよう、読書活動の普及・啓発を進めていくことが求められます。

保護者や地域の大人たちにも読書の重要性や子どもへの支援方法を広め、子どもの読書活動の基盤づくりを進めます。

3 計画の体系

基本理念：子どもたちの豊かな心と生きる力を育む



第4章 第4次計画における施策と取組

基本方針Ⅰ 発達段階に応じた読書活動の推進

施策(Ⅰ) 乳幼児期における読書活動の推進

乳幼児期は、子どもが本と出会い、言葉や感性を育む重要な時期であり、この時期に本にふれることは、言語や認知能力の発達に大きな影響を与えます。

この段階では、家庭や地域と連携し、絵本を通じた親子のふれあいや豊かな言語環境づくりを推進するとともに、発達に応じた資料の整備や読み聞かせ活動、子育て支援との連携を通じて、家庭での読書習慣の定着を支援し、本を身近に感じられる環境づくりを進めます。

取組① ブックスタート事業の実施

■絵本と出会うきっかけづくり

乳幼児健診や育児相談の機会に、ボランティアや図書館職員による絵本の読み聞かせを実施し、乳幼児と保護者が絵本にふれ、読書を通じた親子の関係づくりが始まるきっかけを提供します。

■親子のコミュニケーション促進

絵本の読み聞かせを通じて、親子のコミュニケーションを促進し、家庭での読書習慣の定着を目指します。

コラム：ブックスタート

平成15年に始まったブックスタートは、土浦市で暮らすすべての赤ちゃんとその保護者の方に絵本を届ける取組です。

ボランティアの方による読み聞かせでは、赤ちゃんだけでなく、保護者の方も絵本の世界に引き込まれ、親子で心ふれあう素敵な時間が生まれています。絵本を通して始まる親子の豊かなひととき…そのきっかけづくりを、これからも大切にしていきます。



取組② 児童書の充実

■発達に合った絵本の選定

色鮮やかな絵本、同じ言葉のくり返しや擬音の出てくる絵本など、乳幼児期に合った絵本を選定します。また、布絵本^{※7}、ボードブック^{※8}、音の鳴る絵本など、ふれる、聞くことができるものを収集し、子どもの本への興味を深めます。

※7 布絵本

布素材で作られた絵本でさわることができるため、視覚だけでなく触覚も刺激することができる。軽量で柔らかく、口に入れても安心なため、歯が生え始めた子どもにも適している。言葉の学習を助けるだけでなく、感覚を使った遊びを通じて、子どもの好奇心や探求心を育むのに役立つとされている。

※8 ボードブック

厚い板紙を貼り合わせて作られた丈夫な絵本。破れにくく、ページがめくりやすいため、乳幼児やはじめて絵本にふれる子どもに適している。

■子育て関連施設における本の紹介、貸出

各施設において読書を日常的に行えるよう、子どもの発達に応じた本の紹介や展示を実施し、貸出を促進します。

取組③ おはなし会の開催

■読み聞かせの実施

絵本の読み聞かせや手遊びなどを通じて、子どもたちに楽しい読書体験の場を提供し、子どもが本に親しみ、言葉や感受性を育む機会の創出に努めます。

■乳幼児の読み聞かせの実施

乳幼児向けに、15~30分程度の短時間の読み聞かせや手遊びを取り入れ、楽しみながら本に親しむ時間を提供します。

コラム：ちいさなおはなしかい

土浦市立図書館のキッズコーナーでは、毎週水曜日に赤ちゃん向けのおはなし会を開催しています。このおはなし会は、0歳から2歳くらいの乳幼児とその保護者を対象に、わらべうたや手遊び、絵本や紙芝居の読み聞かせを通じて、親子で楽しいひとときを過ごせる場となっています。



■団体貸出の利用促進と活動支援

子育て関連施設や読み聞かせ活動を行っている団体に向けて、大型絵本、大型紙芝居の情報提供、利用促進に努めます。

取組④ 子育て支援活動との連携

■地域との連携

子育て関連施設やボランティアと連携し、絵本や読書に関する支援を地域全体で進めます。

■子育て支援講座の実施

子育て支援コンシェルジュ^{※9}や専門家と協働で講座を実施し、絵本や子育てに関する情報を介して、子育てに関する学びや情報交換の場を提供します。

※9 子育て支援コンシェルジュ

子育て期のいろいろな悩み、迷い、困りごとなどについて、相談者の気持ちに寄り添い、ご家庭の状況に応じて必要なサービスや情報を提供する案内人。

施策（2）学童期における読書活動の推進

学童期は、子どもが自分の考えを言葉や文章で表現し、論理的に考える力が育つ大切な時期です。読書を通じて、登場人物への共感や知らないことへの関心が高まり、想像力や好奇心が広がります。

この段階には、子どもの興味や関心を広げる、多様な本との出会いが大切です。学校と図書館が連携して読書に親しむ機会を提供し、日常的な読書活動が身につくよう支援します。

取組① 学習、読書に必要な基本図書の収集

■調べ学習や自由研究に役立つ図書の整備

学習に必要な基本的な資料を充実させてことで、幅広い分野に関する情報を提供します。

■学年別の推薦図書や課題図書の収集

学年ごとの課題に合わせた本や読書感想文に適した本を揃えます。学校においては、コンクールへの参加を通して、子どもの読書習慣づくりを推進します。

■学校の授業や読書時間に適した図書の収集

シリーズ本や短編集、フィクション・ノンフィクションを豊富に提供することで、子どもが自分の興味を持ちやすい本に出会える環境を整えます。

取組② 子ども向け講座、イベントの充実

■子ども講座の実施

土浦市の郷土研究や夏休みの宿題に役立つ講座を開催し、子どもの学習を支援します。図書館の活用法を学ぶことで、子どもの情報収集力の向上を図ります。

■ワークショップ、講演会の開催

読書や本に関するワークショップや講演会を開催し、創作の魅力や表現の楽しさにふれる機会を提供します。

取組③ 小学校支援事業の充実

■読書ガイドブック「たからもの」の発行

子どもが本と出会う機会を広げるため、年齢に応じたおすすめ本を紹介したガイドブックを作成し、配布します。

コラム：読書ガイドブック「たからもの」

土浦市立図書館では、子どもと本の出会いのきっかけづくりとして、年齢に応じたおすすめ本を紹介する、読書ガイドブック「たからもの」を1年生・4年生・7年生の進級時に配布しています。

「たからもの」を持って図書館に来る子どもたちを見かけると、とてもうれしく思います。

読書ガイドブック

たからもの



つちうらしりつとしょかん

■小学校図書館司書との連携

学校及び学校図書館司書との連携を強化するとともに、教育課題に合わせた資料を提供し、学びの幅を広げる支援を行います。

■学級文庫^{※10}の貸出

図書館職員が学年ごとに適した図書を選書し、学級文庫としてまとめて貸し出すことで、学校における効果的な読書環境の整備を支援します。

■施設見学の受入

小学校や義務教育学校の校外学習において図書館見学を受け入れ、子どもたちの図書館に対する関心の向上と、身近な学びの場としての理解の促進を図ります。

■出張おはなし会、ブックトーク^{※11}の実施

子どもが自分に合った本と出会い、知識や想像力を育てるきっかけをつくるため、図書館職員が学校の授業に参加し、読み聞かせやブックトークを行います。

施策(3) 青年期における読書活動の推進

青年期は自分らしさをつくっていく大切な時期で、広い視野を持つために読書が大きな役割を果たします。

この段階では、進路やキャリア支援に関する資料の整備や、心の成長に寄り添う読書環境の提供を重視します。また、図書館を情報の拠点として位置づけ、SNS^{※12}やICT^{※13}の活用を通じて、親しみやすい形での情報発信を推進していきます。さらに、学校図書館や教員との連携を強化し、学習支援や読書活動の持続的な支援体制を築いていきます。

※10 学級文庫

小・中学校の各教室に、児童・生徒が利用するために備えられた図書。土浦市立図書館では学年ごとに30冊程度をセットにして、希望の学校・学級に貸し出しを行っている。

※11 ブックトーク

本への興味が湧くような工夫を凝らしながら、ジャンルの異なる複数の本をひとつのテーマに沿って紹介する取組。さまざまなジャンルの本にふれることができる。

※12 SNS

「Social Networking Service」の頭文字をつなげた日本特有の造語。インターネット環境であれば、スマートフォン・パソコンを含むさまざまなデバイスを用いて、テキスト・写真・動画などで交流を深めることができる。

※13 ICT

「Information and Communication Technology」の略称。日本語では「情報通信技術」と訳され、コンピュータを単独で使うだけでなく、ネットワークを活用して情報や知識を共有することも含めた幅広い言葉。

取組① 青少年に必要な基本図書の収集及び多様な情報提供の充実

■ヤングアダルト^{※14}(YA)向け図書の収集

進路選択や自己理解に役立つ本を充実させ、選択肢を広げる支援を行います。YA文学やメンタルヘルスに関する本を収集し、人間関係づくりを支えます。

コラム：Teenの本棚

土浦駅前のアルカス土浦内の図書館には、ヤングアダルト世代に向けた本を集めたコーナー「Teenの本棚」があり、進学や就職を控えた学生たちにとって役立つ本や、人気のライトノベルを並べています。

また、高校生たちが同世代に読んでほしい本を紹介する書評が掲示されているなど、単なる本の展示にとどまらず、自習に訪れた高校生が本を手に取るきっかけを提供しています。

これにより、読書を通じて学びや成長の機会を広げ、次世代を担う若者たちの成長を応援する温かいコミュニティの場となることを目指しています。



■ヤングアダルト向けの情報発信

中高生がアクセスしやすい形で本の魅力を発信し、積極的に読書にふれるきっかけをつくります。

取組② 中学校支援事業の充実

■授業における図書の活用支援

総合学習や調べ学習を支えるため、授業を補完する図書を提供し、学びを深める支援を行います。

■中学校図書館司書との連携

学校図書館司書と連携し、学校のニーズに応じた図書を提供するとともに、生徒のボランティア活動も支援します。

■職場体験学習の受入

図書館業務の体験を通して、運営や情報リテラシーの基礎を学ぶ機会を提供します。

※14 ヤングアダルト

子どもから大人への転換期にある、13歳から18歳までの年齢層のこと。YAと略される。

■読書ガイドブック「たからもの」の発行

中学生が読書の楽しさや知識の広がりを実感できるよう、幅広いジャンルのおすすめ本を紹介したガイドブックを作成し、配布します。

取組③ 高等学校、学生との連携

■高校生向け読書会、ビブリオバトル^{※15}の開催

読書会やビブリオバトルを通じて、意見交換や対話の機会を提供し、思考力や表現力を育てます。

■調べ学習・レポート作成支援

調べ学習やレポート作成をサポートするため、レファレンスサービス^{※16}を行います。資料の探し方をアドバイスし、効率的な調査スキルが身につくよう手助けします。

■学生ボランティアの育成

図書館イベントの運営を支える学生ボランティアを育成し、若い世代の図書館の利用促進と読書機会の創出を図ります。

施策(4) 多様な子どもたちの読書活動の推進

子どもの発達は一人ひとり異なるため、画一的な方法ではなく、発達段階や家庭環境に応じた柔軟な取組が求められます。学校と図書館が連携し、特別な配慮を必要とする子どもが読書を楽しみ、学びを深められるよう、環境づくりを進めていきます。

取組① さまざまな読書形態に対応する多様な資料の収集、提供

■LLブック^{※17}の収集、提供

だれにでもやさしく読みやすい本を収集、提供し、読書を楽しめる環境を整えます。簡単な言葉やイラストで表現された本が、学びと楽しさをサポートします。

※15 ビブリオバトル

本の書評ゲーム。バトラーと呼ばれる参加者が、それぞれのおすすめ本の魅力を5分間で紹介し合い「最も読みたくなった本」を投票で決定する。発表や質疑応答でコミュニケーション能力を鍛えながら、本を通じて他者の価値観や考え方を知ることができる。

※16 レファレンスサービス

調べたいことや探している資料などの質問について、必要な資料・情報を案内するサービス。図書の所蔵の有無はもとより、関連資料の紹介や他機関所蔵資料の探し方の案内、新聞記事や雑誌記事、論文などの探し方も案内する。

※17 LLブック

LLはスウェーデン語の「LättLäst」(英語ではeasy to read) の略。だれもが読書を楽しめるように工夫してつくられた「やさしく読みやすい本」のことを指す。

■点字図書、大活字本^{※18}、録音図書の収集、提供

点字図書や大活字本、録音図書（マルチメディアDAISY図書^{※19}）、ユニバーサル絵本^{※20}などを収集し、配慮が必要な子どもが読書を楽しめる環境をつくります。

■読み書きに困難のある子どもに対応した図書の収集、提供

ディスレクシア^{※21}に対応した読みやすい図書やサポート機材を提供し、読み書きが苦手な子どもを支援します。

■多言語の絵本や児童書の収集、提供

日本語を母語としない子ども向けに、多言語絵本や児童書を充実させ、読書を楽しめる環境を整えることにより、言語習得や異文化理解を支援し、子どもが自分の言葉で読書の楽しさを感じられるようにします。

■多言語の絵本や音声資料を活用したおはなし会の開催

ALT^{※22}や通訳ボランティアと連携した外国語のおはなし会を開催し、多言語に親しむ機会を提供します。

■りんごの棚^{※23}の設置

だれもが楽しめる本を一か所に集め、子どもが自分に合った本と出会えるよう支援します。レブックや大活字本、ユニバーサル絵本などを揃え、自分のペースで選べる工夫をします。

※18 大活字本

視力の弱い方や文字が読みづらくなった方のために、文字サイズや行間を大きく調整した本。一般的な文庫本より大きい、12～22ポイントの文字を使用している。

※19 マルチメディアDAISY（デイジー）図書

音声と一緒に、文字や画像が表示されるデジタル図書。表記された文書を音声で聞きながら、画面上で絵や写真を見ることができる。読み上げているフレーズの色が変わる（ハイライト機能）ので、どこを読んでいるのかが一目でわかる。文字の大きさ、音声のスピード、文字や背景の色を選ぶことができる。

※20 ユニバーサル絵本

絵と文字が印刷された通常の絵本に、点字や絵の輪郭がわかるように凹凸を添えたもの。手ざわりを楽しむことができる。

※21 ディスレクシア

知的な困難や全体的な発達の遅れはないものの、文字の読み書きに限定した困難がある状態。文字の読み書きのみに難しさを感じる状態を指す学習障害、限局性学習症のひとつで、読み書き障害や識字障害と呼ばれることがある。

※22 ALT

「Assistant Language Teacher」を略したもので、日本の公立小学校、中学校、高等学校などで外国語教育をサポートするために雇用されている、外国人の英語教師。おもな役割としては、英語の授業で日本人の英語教師をサポートして、生徒に英語の発音や文化を教えている。

※23 りんごの棚

スウェーデンの図書館でスタートした、特別なニーズのある子どもを対象とした公共図書館サービスのひとつ。さまざまな形式の図書館資料を一か所に集めることで、子どもが自分に適した資料に出会える手助けをする。

コラム：「読む」をサポートする資料・機材

ＬＬブックやユニバーサル絵本、ＤＡＩＳＹ図書は、読むことに困難を感じる人々をサポートするために作られた特別な資料です。ＬＬブックは文字が大きく、わかりやすい表現で書かれています。ユニバーサル絵本は、視覚や聴覚に障害がある子どもたちも楽しめるようにデザインされています。マルチメディアディジー図書は、音声や画像、テキストが組み合わさり、視覚に頼らず聴覚でも情報を得られる本です。これらは、だれもが平等に「読む」楽しさを体験できるよう工夫されています。

読むことをサポートする機材としては、本をモニターに映し出し、好きな大きさにできる拡大読書器や、読みたい本をスキャンすると、音声で読み上げる「よむべえスマイル」、ＤＡＩＳＹ図書を再生する機械「プレクストーク」などがあります。



拡大読書器



よむべえスマイル



プレクストーク

取組② 特別支援学校、支援学級における読書活動の充実

■発達に応じた図書の提供、貸出

一人ひとりの特性やニーズに応じて適切な図書を提供し、すべての子どもに読書の楽しさと学びの機会を届けます。

■視覚支援ツール^{※24}を活用したおはなし会の開催

視覚や言語理解に困難のある子ども向けに、絵カードなどの視覚支援ツールを使ったおはなし会を開催します。

■図書室や教室への資料提供

特別支援学校の図書室や教室への貸出を行い、本にふれる機会をつくります。

※24 視覚支援ツール

コミュニケーションや学習に困難がある方をサポートするために使われる視覚的な補助ツール。ピクトグラムや色分けされた情報・感情カードを使い、言葉だけでは理解しにくい情報を視覚的に整理することで、個々のニーズに応じてサポートを行う。

基本方針 2 子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備

施策(1) 家庭、子育て関連施設、地域における読書機会の提供と環境整備

家庭では、保護者が絵本の読み聞かせを行うことや子どもの興味や年齢に応じた本を身近に置くことで、日常的に読書に親しめる環境づくりが大切です。

子育て関連施設では、絵本コーナーの設置や読み聞かせの実施により、本にふれる機会を提供し、保護者への本の紹介など家庭での読書支援を行います。地域でも公民館を拠点に読書環境を整備し、子どもの継続的な読書習慣を支えます。

取組① 親子で読書を楽しむきっかけづくり

■図書リストの作成、配布

おすすめ本リストを保護者に配布することで、本を選ぶサポートを行い、興味や関心に合った本に出会うきっかけをつくり、日常的な読書活動を支援します。

■出張おはなし会、親子読み聞かせ会の開催

子育て関連施設や公民館で、読み聞かせボランティアによるおはなし会を開催し、読書の楽しさを伝えます。

取組② 子どもに身近な施設の整備

■子育て関連施設、公民館の図書コーナーの設置、充実

児童館や公民館などの身近にある施設に図書コーナーを設置し、計画的に本を提供することで、子どもが読書に親しむ機会を増やします。

■リサイクルブックの活用

図書館で不用になった児童書を各施設で再活用することで、地域内の読書活動を支援し、子どもが本と出会う機会を広げます。

施策(2) 学校、学校図書館における読書機会の提供と環境整備

学校や学校図書館では、子どもが日常的に本に親しめるよう、授業内での読書時間の確保や朝の読書活動の継続など、読書の習慣化が求められます。

また、学年や興味に応じた蔵書の充実、司書教諭や図書館司書の配置など、子どもと本をつなぐ支援体制の整備も重要です。学校図書館を読書や調べ学習の拠点とする環境づくりを進め、子どもが主体的に本と関わる機会の充実を図ります。

取組① 学校図書館の充実、利用促進

■定期的な図書の購入や蔵書点検の実施

多様なジャンルの本を揃え、学びや興味を引き出す資料を提供して読書と学習を支援します。定期的に蔵書の点検や入れ替え、除籍を行い、魅力的な図書館を維持します。

■学年別、教科別のテーマ展示の推進

教科書のテーマに合わせた展示を行うことで、授業との連携を深め、教科書から読書活動への関心を引き出します。

■読書空間の充実

読書スペースやグループ学習エリアを設け、集中できる場所と交流できる場所を両立させ、児童生徒が自然に訪れたくなる居心地の良い空間づくりに努めます。

■学校図書館利用時間の拡充、開放

朝の読書時間や昼休み、放課後にも図書館を開放し、生徒が自由に利用できる時間を確保することで、読書習慣の形成を促します。

取組② 読書指導の充実

■読書時間の確保と習慣化

授業や行事と連携した読書活動で、子どもの主体的な読書意欲と学びを育てます。また、授業時間に読書時間を設け、自由に本を選んで楽しむ習慣を形成します。

■テーマ別の読書活動やブックトークの活用

ブックトークや読書ワークで興味を引く本を紹介し、子どもが自分に合う本を見つけるよう支援します。

取組③ 学校図書館司書との連携

■図書館との連携強化

教員、学校図書館司書、図書館職員が連携し、読書活動を推進します。所蔵本の共有や連携イベントを通じて、読書支援と情報リテラシーの向上を図ります。

■定期的な情報交換、研修会の実施

情報交換を通じて、学校、図書館、双方のニーズや利用状況を把握し、図書館サービスの向上を図ります。研修会では、学校図書館司書のスキルアップや、公共図書館の新しいサービス導入について学び合い、互いに支え合う体制を築きます。

施策（3）図書館における読書機会の提供と環境整備

図書館では、年齢や興味に応じた多様なニーズに対応し、蔵書の多様化と質の向上を図ることが重要です。安心して本に親しめる環境を整え、興味を引く展示や親しみやすい書架づくり、分館の充実に努め、地域全体で子どもの主体的な読書習慣を支えます。本を貸し出すだけでなく、子どもの学びと成長を支える地域の拠点として、環境整備と継続的な取組に努めます。

取組① 電子図書館の充実、活用

■電子図書館サービスの提供

電子書籍を活用し、家庭や学校でも使いやすい読書環境を整えます。音声読み上げ機能付き電子書籍の提供により、視覚に困難のある子どもや、音声での情報提供を希望する子どもにも配慮します。

■児童、保護者向け電子書籍の充実

児童向けに、絵本や児童文学、学習書を充実させ、読書習慣を形成します。保護者向けには大人も楽しめる児童書等を提供し、家庭全体での読書活動を支えます。

■研修会の実施、ガイドブックの配布

保護者や教員の理解を深めるため、電子図書館の使い方に関する研修会を実施し、利用方法などを記したガイドブックを配布することで、いつでも参照できる体制を整えます。

取組② ICTを活用した取組の実施

■ICTを活用した読書イベントの開催

インターネット等を使ったイベントを開催し、ゲーム感覚で読書の楽しさを体験することで、子どもたちの興味、関心を高めます。

■図書館ホームページ、SNSの活用

ホームページやSNSを活用して、新刊やイベントの情報を発信し、子どもがタブレットで自分に合った本を探せる環境を整えます。

取組③ 読書習慣の形成と書架づくり

■本の通帳サービスの充実

図書館で借りた本の情報を記録できる「本の通帳サービス」について、記帳を促進するための情報発信やイベントの開催に努めます。

■子どもに使いやすい書架づくり

書架を低く設置し、子どもが本を容易に手に取れる環境を整備するとともに、季節や時事、関心に応じた展示を行い、興味のある本に出会える書架づくりに努めます。

コラム：きせつのえほん

図書館には、季節や行事ごとの絵本を集めた「きせつのえほん」コーナーがあります。春夏秋冬に加え、お正月やクリスマスなどの年中行事をテーマにした絵本を集めることで、子どもたちが行事に親しみ、興味を持つきっかけとなっています。絵本を通して季節感や文化を学びながら、楽しみと学びが広がる展示として、多くの親子に利用されています。



■安全で快適な空間づくり

子どもが安心して過ごせるよう、安全で快適な環境づくりに努めます。また、配慮が必要な子どもや保護者が、周囲を気にせずに読書ができるスペースを提供します。



閲覧・学習席



閲覧席



低書架



読み聞かせスペース



おはなしのへや



キッズコーナー

基本方針 3 子どもの読書活動に関する普及・啓発

施策(1) 保護者、市民への啓発

子どもの読書活動を社会に普及・啓発するためには、保護者をはじめとした子どもに関わる大人にその重要性を伝え、具体的な行動につなげていく取組が必要です。研修会や講演会を通じて大人が子どもの読書の意義や効果を学び、日常生活の中で読書を促す方法を知る機会の提供に努めます。

取組① 家読（うちどく）※25の推進

■親子で楽しむ読書時間の推進

家庭での読書を日常として定着させるため、保護者への啓発を行い、本が身近な存在となる環境づくりを進めます。

■読書記録ノート等の活用

家庭内で読書習慣を促進するため、読書記録ノートやシールなどを提供し、楽しみながら読書を続けられる工夫に努めます。

取組② 子育てにおける読書活動の啓発

■乳幼児健診や子育て教室等での絵本紹介、読み聞かせの実施

保健師と連携し、健診や子育て教室において、読書が子どもに与える影響の重要性を保護者や関係者に伝えます。

■子育て支援コンシェルジュとの協働展示

図書館内に子育てに役立つ図書の展示や保護者向け情報コーナーを設置し、親子で読書を楽しむ環境を提供します。

■保護者向け読書ハンドブック、家庭教育通信の作成

読み聞かせのコツや年齢別のおすすめ図書を紹介したハンドブックや家庭教育通信を作成し、保護者の本選びをサポートします。

■図書館の利用促進

保護者が集まる機会を利用して図書館の周知を図り、親子の図書館利用を促進します。

※25 家読（うちどく）

「家庭読書」の略で、家族全員が一緒に読書を楽しむことで、家族間のコミュニケーションを深め、絆を強めることを目的とした読書運動。家庭での読書活動を積極的に推進し、親子で本を通じてさまざまな価値観や知識を共有できるきっかけをつくる。

取組③ 保護者の学習、相談機会の活用

■保護者向け講座の実施

子どもの読書活動に関する講座を開催し、保護者が子どもの読書について学び、相談できる機会を提供します。

取組④ 子どもに関わる大人に対する事業の実施

■ボランティアの育成及び研修会の実施

読み聞かせや年齢別の読書活動に関する研修会を実施し、ボランティアの育成と資質向上を図ることで、より効果的な支援を行うための体制づくりを推進します。

■教員、学校図書館司書向けの研修会の実施

教育機関や専門家と連携した研修会を実施し、学校図書館運営に必要なスキルを高め、読書活動の充実を図ります。

施策(2) 子どもの読書活動に係る情報発信

図書館や学校、地域の子育て関連施設等が連携し、読書イベントの開催や図書リストの配布、ホームページやSNS、広報紙を活用した情報発信を通じて、子どもに適した本や読書習慣づくりに関する知識を家庭や地域に広めます。

取組① 図書館利用促進イベントの開催

■利用促進イベントの開催

子どもや家庭が図書館に親しみ、日常的に利用することを目的として、体験的・参加型のイベントを開催します。さらに、景品を配布するなど、子どもの興味、関心を深めます。

■こどもの読書週間^{※26}、子ども読書の日^{※27}イベントの開催

こどもの読書週間(4月23日～5月12日)や子ども読書の日(4月23日)に合わせてイベントを開催し、読書週間、読書の日の普及、啓発に努めます。

※26 こどもの読書週間

“子どもたちにもっと本を、そして本を読む場所を”との願いから、1959年に誕生。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間だったが、子どもの読書への関心の高まりを受けて「子ども読書年」である2000年に改定、延長した。図書館・書店・学校を中心に、子どもに本を手渡すさまざまな行事が行われている。

※27 子ども読書の日

子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが読書する意欲を高めることを目的として、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき定められた。

取組② さまざまなメディアを活用した情報提供

■図書館ホームページの充実

新刊やおすすめ図書リスト、展示、イベント情報などを整理・発信し、定期的に更新することで利用促進を図り、地域の情報拠点としての役割を強化します。

■SNSを活用した情報発信

InstagramやX、ブログなどのSNSを活用して新刊紹介やイベント告知を行うとともに、図書館だよりやポスターのデジタル版を発信し、地域の読書活動を促進します。

■広報紙、市の情報媒体との連携

「広報つちうら」で図書館サービスを定期的に紹介し、利用促進と読書活動の認知度向上を図ります。また、市の子育て支援アプリなどを活用し、図書館に関する情報を積極的に発信します。

【図書館・土浦市関連ホームページ・SNS一覧】

情報源	URL	二次元コード
土浦市立図書館ホームページ	https://www.t-lib.jp/	
土浦の文化施設情報 (つちカル4) ^{※28} X	https://x.com/tsuchiura_cul4/	
土浦の文化施設情報 (つちカル4) Instagram	https://www.instagram.com/tsuchiura_culture/	
土浦市公式ホームページ	https://www.city.tsuchiura.lg.jp/	
土浦市公式Facebook つちまる	https://ja-jp.facebook.com/tsuchimaru.official/	
子育て支援アプリ つちまるKids	https://www.mchh.jp/inflow/qr/index.html	

※28 つちカル4

土浦市の文化施設4館（博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館、市民ギャラリー、図書館）の運営で、土浦の文化情報を発信している。

第5章 計画の推進

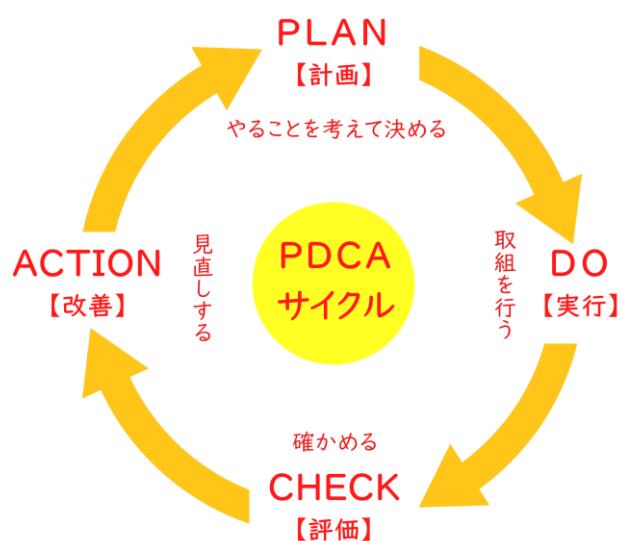
I 成果目標

第4次土浦市子ども読書活動推進計画の成果目標を設定し、向上を目指します。

指標	現状値（R6）	目標値（R12）
児童書の年間貸出冊数	222,641冊	250,000冊
13歳から18歳（Y A世代）の年間貸出者数	6,732人	7,000人
電子書籍利用回数 ※GIGAスクール構想端末による利用回数	37,927回	45,000回
学校図書館貸出冊数	1～6年生 1人あたり45冊	1人あたり50冊
	7～9年生 1人あたり12冊	1人あたり13冊
1か月の間に1冊も本を読まなかった児童の割合	8.0%	7.8%

2 進行管理

この計画の進行管理は、PDCAサイクル^{※29}（Plan-Do-Check-Action）を軸に図書館主体で行います。まず計画（Plan）に沿って施策・取組を実行（Do）します。図書館が主体となり、家庭・地域・学校・ボランティア等と協働し、計画を実行します。評価（Check）の段階では、目標値との差異を確認し、成果と課題を整理します。最後に改善（Action）として、評価で明らかになった問題点を改善策に落とし込み、次年度に反映させ、活動の質を向上させます。



※29 PDCAサイクル

事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法のひとつ。

Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善することができる。